

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000283		
法人名	株式会社道央ケアセンター		
事業所名	グループホームつつじ(ユニット1)		
所在地	小樽市朝里川温泉2丁目694番13号		
自己評価作成日	平成29年1月13日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0172000283-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は自然豊かな環境に恵まれており、暖かい季節にはホーム周辺の山々の景色、自然の草花や小動物などを眺めながら散歩を楽しむことができます。中庭でお茶やランチを楽しんだり、畑の家庭菜園でご利用者様と一緒に野菜を育て収穫し食事をします。又、隣接するグループホームやデイサービスのご利用者様と日曜喫茶やお祭りなどで交流を持つ機会が多くなります。近くの小学校の運動会の参加や学習発表会の見学、ボランティアの介護予防体操や指圧マッサージなど地域の方々との交流を深め、地域に密着したグループホーム作りを目指し日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームつつじは、小樽市郊外、朝里川温泉の幹線道路沿いにあり、鉄筋2階建て、2ユニットとして広い敷地に関連法人のグループホーム2軒、デイサービス1軒とともに豊かな自然に囲まれている。利用者はゆったりとしたリビング、居室、そして戸外での食事等も楽しめる庭で四季折々の変化を慈しみながら日々穏やかに生活している。敷地内にある家庭菜園では、職員とともに利用者が野菜づくりに汗を流し、収穫を喜び、食材として楽しんでいる。事業所の職員は、利用者のより良い人生の一助となるよう「目的ある、楽しい介護を体験しながらステップアップしていく」ことを指針として日々努めている。そして、夜勤専門の職員を導入することにより、夜勤困難な稼働層も職員として働くことができるようにし、安定した質のサービスを維持している。事業所のサービスの質とともに自然を含めた利用者の生活環境は、家族からも好感を持って受け入れられている。また、事業所は「子ども110番」として地域の子供を見守り、小学校の運動会、学習発表会等に利用者も参加し、ホームの祭りその他の行事に子供たちを始め地域の人たちを招待するなどして交流し、利用者、職員ともに地域に密着したグループホームを目指し取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に社内研修を行い事業所理念を理解し日々の具体的なケアにどう反映したらいいのか全職員で確認しています。	理念は、研修等において職員間で確認、共有、日常のケアの中で実践し、そして地域密着型を更に推進する為に職員自ら理念をつくり、地域との連携、利用者へのサービスの向上に日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の運動会や学習発表会にご利用者様が参加し、ホームのイベントに地域の方々を招待し交流を深めています。	温泉街の町内会、小学校等の行事に積極的に参加し、事業所の庭で行う利用者のお茶会、関連事業所との合同のお祭りに子供たちを含めた地域の人たちを招待し、防災訓練にも参加してもらうなどして交流、連携を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流の機会を活かし、認知症高齢者について正しく理解していただけるよう伝えていきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価結果やホームでの取り組みについて報告しています。また、会議での意見交換をもとにサービスを見直したり、事業所内で話し合いを行っています。	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域包括センター、利用者家族、消防署等に参加していただき、事業所の取り組み、利用者の日常の状況等を報告し、参加者と意見交換をし、事業所の改善、サービスの見直しを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する研修会や勉強会に積極的に参加させていただき、情報収集に努め、何かあれば担当者からアドバイスをもらうなど協力関係を築いています。	市主催の研修会等に積極的に参加し、運営推進会議に市の参加を呼びかけている。市、地域包括センター等の担当者と常に情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に行う身体拘束廃止推進委員会で検討し、身体拘束の具体的な行為や事例について学ぶ機会を持ち身体拘束をしないケアに努めています。	今までに身体拘束が行われたことはなく、目的がある、楽しい介護を目指し、体験を重ねながらステップアップしていけば抑制もなくなるということを職員の指針とし、また利用者の家族にも知らしめている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に行う社内研修や身体拘束廃止推進委員会で虐待防止を取り上げ学ぶ機会を持ち虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護や日常生活自立支援事業、成年後見人制度を社内研修で取り上げ、職員全員が学び知識を共有できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、不安を軽減していただくために、ご利用者様やご家族様が納得されるまで説明し改定の際は、書面、口頭にて伝え不安の軽減に努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に直接お話を伺ったり、面会簿や玄関に設置している意見箱に入れていただけるようにしています。それらを会議や申し送りで話し合いサービスの見直しをしています。	1年に1回家族アンケートを行い、その結果を運営推進会議、1ヶ月1回のフロア会議で討議しサービスの見直しなどを行っている。また、それらの内容、結果をお便りで御家族に知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や申し送り、普段から提案や意見交換をし職員間で共有しサービス向上に努めています。	職員の意見、要望等は1ヶ月に1回のフロア会議、毎日の申し送りで提出、意見交換を行っている。又、事業所では夜勤のみの勤務者を配置し、管理のロスを無くし、昼勤務者のサービス提供を充実させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向け支援を行い外部研修への参加の機会を作っています。また、向上心を持って働けるような環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が参加できる社内研修を実施したり、能力や経験に応じ社外研修に参加する機会を作って内容を職員全員で共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会に参加し交流する機会を持っています。相互訪問研修を行うことで他事業者の運営方法やサービスについて学びサービス向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にホームの見学を勧めたり、ご本人が今まで趣味で行われていたことをホームに入所後も継続できるように努め、ご要望に添えるよう相談させていただきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前にご家族様と話し合いをし、ご本人が安心して過ごせるよう考え、問題解決もご家族様と相談して行い信頼関係をつくれるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様とご本人様の現在の状況を伺い、最適な支援が受けられるように対応しています。他のサービス利用も提供し、そちらの方が合っていれば他のサービスの紹介もしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の得意なことを率先して取り組んでいただいたり、昔の体験談や生活の知恵を教えていただいたり、コミュニケーションを取っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	レクリエーションへの参加を呼びかけたり、一緒に料理などできるものを作っただいています。ご家族様には外食や通院にご協力いただき、ご本人様を支え合う関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも知人や友人の方と面会してお話できる場所を設けたり、外出や外泊で自宅に戻ったり馴染みの場所へ行きこれまで築いた関係や社会との関わりが途切れないように努めています。	知人、友人が来訪した時には、ゆっくり話ができる場所を常時設けており、自宅に帰っての外泊、又馴染みの美容院などへ気軽に外出できるサービスを常に提供できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の相性や性格を理解し気の合った仲間作りのお手伝いをします。また、耳が聞えずらいなどの場合には職員が間に入り会話の橋渡しを行いお互いに支え合う関係が築けるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もこれまで暮らしてきたホームでの様子を必要に応じて、関係機関に伝えたり、ご家族様にはいつでもご相談に応じることをお伝えしています。また、個人情報の保護もお約束しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や会話からご本人様のご要望に添えるように努めています。困難な場合には、ご家族様とお話してよりご希望に近いものになるようにしています。	職員は生活情報等より、利用者の生活歴を確認し、日常の会話、行動に寄り添い、又家族とも随時相談しながら利用者の意向、要望を把握するとともにその意向、要望に添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人様やご家族様から生い立ちを伺い、今後のサービス提供に活用しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人ひとりの食事量、水分量や排泄のチェックを行い記録しています。生活のパターンなどで現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様とご家族様の意向をふまえて、職員間で意見交換とモニタリングを行って介護計画を作成しています。	介護計画は職員間で3ヶ月毎にモニタリング、見直しを行い、利用者それぞれの短期目標も設定し、介護日誌で毎日チェックしている。そして、職員が利用者の為に希望の持てる介護ができるように日々努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはご利用者様の毎日の行動や具体的な言葉を記録しています。職員間で情報を共有しご家族様がいらした際に近況をお伝えしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様が美容室での散髪を希望された場合は、職員が送迎と同行をさせていただきます。急な体調不良の臨時受診などにも対応できるよう職員の連携を工夫しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供達の運動会に参加したり、秋の味覚祭、ハロウィンパーティーやクリスマス会などで交流しています。また介護予防体操や指圧ボランティアの協力を得て豊かな暮らしの支援をしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関やご本人様の以前から通っていた病院など、ご本人様の症状に合った病院に通い、ご家族様と相談、協力をして適切な医療が受けられるように支援しています。	協力医療機関、かかりつけ医への受診を御家族と協力し合いながら行い、利用者一人ひとりの「受診記録」「支援経過」を作成、職員間で常に共有し、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で健康管理を行い、異常の早期発見を心掛けています。体調に変化があった場合は、協力病院の看護師に連絡し、助言をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的にご家族様や病院関係者と連絡を取り、ご利用者様の状態について把握できるようにしています。また、速やかな退院を目指し、ホームの受け入れ態勢を整えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでい	状態の悪化が予想される場合は、ご本人様やご家族様、主治医とも十分に話し合い、方針を決めています。	当事業所では、現在「看とり」は行っておらず、その旨の文書は作成しておらず、入所時に口頭で本人、家族に説明し、状態の悪化が進んだ場合はその都度主治医を含めた話し合いのもとで方針を決めている。	利用者、家族の意向、要望に寄り合い、重度化、終末期における職員の利用者に対する充実したケアを行う為にも、利用者、家族そして職員が共有できる指針を文書化し、明示することに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故、救急手当ての対応は定期的に社内研修を行い必要時に適切な処置ができるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	敷地内の系列のグループホームと連携し定期的に避難訓練を行っています。消防署や民生委員、地域の方々にも参加していただき、協力体制を整えています。	同じ敷地内の関連法人のグループホーム、デイサービスの事業所と合同で、小学校のPTAの参加も得て、火災を想定した防災訓練を年2回行っている。又、水、缶詰等を最低3日間をめに備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けています。	年に1回、接遇研修を行い、言葉かけを大事にすることを職員間で共有し、問題のある時はその都度話し合いをして利用者への人格の尊重、誇り、プライバシー等のより良い対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様のお話を傾聴し、思いや意向、ご希望等を伺い、状態や表情の変化を観察して自己決定ができるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のご希望に沿って、一人ひとりのペースに合わせた生活を送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様のご希望に合わせ、一緒に洋服を選んだり、美容室への外出支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事力や好みに合わせて大きさを変えるなどの配慮をしています。職員とご利用者様が一緒に配膳、下膳や洗い物を行っています。	献立は法人の管理栄養士が作成し、利用者は調理のお手伝い、後片付けに参加している。又、利用者が栽培、収穫した家庭菜園の野菜を食材とし、利用者、職員と一緒に食べることが楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量を記録しバランスよく摂取できるように声掛けを行っています。また、ご本人様の摂取しやすい物や形態にして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けで歯磨きを行っていただき、一緒に付き添って口腔内の清潔を保っています。夕食後には義歯を預かって洗浄剤で消毒しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録、把握して時間で声を掛けたり、付き添ってお手伝いさせていただき、トイレでの排泄ができるように支援しています。	当事業所ではトイレでの排泄を基本とし、排泄パターンの記録、把握をしているが、利用者の半数以上が自立となっており、介助の必要な方への誘導は排泄パターンを元にプライバシーを尊重して耳元での声掛けによりトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄を記録し、乳製品の摂取と適度の運動を行っています。便秘の時は医師に相談しており、薬の処方もあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2日は入浴できるように支援しています。ご本人様に伺い、入浴できない時は時間をずらしたり、足湯を行ったり工夫しています。	週6日の内、2日以上を入浴日とし、又失禁等の時には適宜入浴できるように支援している。風呂場には大きな窓があり、明るく常に清潔に保たれ、利用者はたっぷりの湯に入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて休息、睡眠時も見守り安全に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用など確認しています。誤薬防止に職員が複数で服薬の確認をしています。体調の変化が無いか注意深く見守っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の得意なことや興味があることを職員と一緒に楽しんでいます。ご家族様がご本人様の嗜好品を差し入れて下さいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く、ご利用者様の体調が良い日にはホーム周辺の散歩に出かけたり、中庭でお茶を召し上がっていただきます。ご家族と外出し外食される方もいらっしゃいます。	豊かな自然に囲まれた当事業所では、利用者は天気の良い日は敷地内を散策、庭でのお茶会等で楽しんでいる。事業所での外出は利用者職員との1対1を原則としているが、家族との外食も可能としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本にご利用者様は行っていませんが、ご家族の許可をいただいている場合は小額の現金を所持している方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はご本人様にお渡ししています。読めない方には、職員が読んで差し上げています。フロアの電話をいつでも利用し、ご家族や友人の方に電話ができるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただけるような飾りつけをシンプルにしています。こまめに掃除や消毒を行って清潔を保っています。湿度や温度の調節は職員が行って心地よく過ごせるように配慮しています。	建物全体が広めに作られ、共有空間は日差しが入り明るく開放的な空間の中で、利用者様それぞれの日常を、そしてそれぞれの時を過ごしている。壁には職員が描いた利用者の似顔絵等が飾られ、職員の掃除により清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでテレビをみたり、談話されて過ごされています。仲の良いご利用者様同士がお互いの居室でお話されたり、自由に過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使い慣れた家具などを持ち込んでいただきご自宅に居た時と変わらず安らげる環境を作っています。	居室も広めに、そしてクローゼットも大きめに作られ、それぞれの部屋が個性的な雰囲気工夫されている。1階には洗面トイレ付きの部屋が4部屋、2階には2部屋あり、利用者は職員が見守り寄り添う中で、毎日を安全、安心に、穏やかに暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所の場所を大きな文字で表示したり、居室にネームプレートを付けて分かりやすくしています。		